

## 令和3年度第4回富山県技術専門学院見直し検討部会 議事要旨

日時 令和4年3月15日(火)

午前10時～11時30分

場所 富山県民会館302号室

○出席者（委員7名、オブザーバー2名）

＜労働者代表委員＞ 長委員、森川委員

＜事業主代表委員＞ 根塚委員、東出委員

＜学識経験者委員＞ 岩本委員、中村委員、能登委員

＜オブザーバー＞ 相楽オブザーバー、清水オブザーバー

## 1 開 会

## 2 富山県商工労働部次長挨拶

本日、御多用の中、部会にお集まりいただきましてありがとうございます。

この部会は、これまで3回にわたり開催をしております。前回1月に技専の訓練案のたたき台を御説明いたしまして、再編後の各科のすみ分けですとか訓練内容など、幅広い視点から御意見をいただいたところでございます。

本日は、前回いただきました委員の皆様からの御意見、それからニーズ調査の結果も踏まえまして、改めて訓練科の見直しの案を御提示させていただきますので、委員の皆様には忌憚のない御意見、御提言をいただきますとともに、本日、できれば部会としての見直し案を取りまとめていただければと思っております。

また、その後、年度内にできれば親会議の審議会のほうにも諮っていただければと思っておりますので、本日はよろしく願いいたします。

・ 委員紹介

・ 配布資料の確認

## 3 議題

## ● 議長

それでは、早速本日の議事に入りたいと思います。本日は、前回会議での委員の皆様からの御意見

を踏まえ、訓練の見直しについて、事務局から資料1から7までの説明をお願いいたします。

## (1) 協議事項 富山県技術専門学院訓練見直し(案)について

事務局(労働政策課長)より、資料に基づき説明

### ○資料1 R3技術専門学院訓練科目の見直しスケジュール(案)

#### 資料2 富山県技術専門学院訓練ニーズ調査(暫定版)

お手元の資料の資料1、2から説明させていただきます。

まず、資料1でございます。こちらは訓練科目の見直しスケジュールです。本日が3月の第4回検討部会で、見直し案の方向性をできれば固めさせていただきたいという状況になっております。この後、3月末に第2回の審議会も予定はさせていただいている運びでございます。

続きまして、資料2、富山県技術専門学院訓練ニーズ調査報告書でございます。こちらは、本当のセット版は3月末にできるということで、暫定版にはなっております。

最初の方にサマリーがございますので、そちらを簡単に御紹介させていただきます。

まず1番、調査概要、1ページ目を御覧いただければと思います。今回、令和3年の11月から12月にかけて調査を行っております。事業所対象につきまして、1,183事業所の方々から御回答をいただいております。回収率としては36.1%になります。また、求職者対象につきましては、合計の有効回答数としては489件で、直接紙等で配付させていただいたものについて460件となっております。回収率は33%でございます。

おめくりいただきまして、2ページ、高校生対象でございます。県内高等学校17校の学生を対象にしております。1,454の回答をいただいております。こちらの回収率は100%となっております。また、技専修了生にも配っております。396件の回答をいただいております。回収率としては54%となっております。

調査結果の概要、まとめでございます。3ページから7ページまで記載がございます。簡単に御説明いたします。

まず、3ページを御覧ください。まとめ、現状についてでございます。人材の過不足感と希望業種・職種についてというところで、事業所における人材の過不足感については、約7割の事業所が将来を含め不足感を感じております。特に、非製造業では54%と過半数以上となっております。

また、不足している年齢層については、やはり「若年層」が非常に高く8割を超えており、特に不足感が強いということでございます。

また、職種については、製造業で「技能職」、非製造で「専門技術職」が非常に不足感が高いということとなっております。

また、求職者の希望する業種としては、「製造業」が4割ほどで「非製造業」が76%と、「非製造業」は希望者が多いと。

また、希望する職種は、製造業では「専門技術職」が高くなっておりまして、非製造業では「一般事務職」、また「専門技術職」が高いと。

高校生については、「製造業」が3割ほど、「非製造業」が44%というところで、また、それぞれの業種とも「専門技術職」を希望される方が4割ということで高くなっております。

仕事探して重視したいことについて、求職者は「時間・休日等の就業条件」「適性に合った仕事」、また高校生は「収入」や「職場環境」というところが重視されています。また、仕事を探す上で足りないことは、「知識・経験」「スキル」が高くなっておりまして、特に製造業希望者ではこれらが5割を超えております。

おめくりいただきまして、4ページ、技専修了生についてのアンケートから、入校理由は、「技能や技術を身につけられるから」「資格を取れるから」といったところが非常に高くなっております。また、修了生の9割以上が満足をしているということで、理由は「技術や技能が身についた」が8割、「資格が取れた」が7割弱というところで、多くが目的を達成いただいているということが分かります。

また、2番、訓練コースのニーズでございます。こちらは、技専受講経験者を採用したことがある事業所のうち、経験があるコースは「メカトロ」「電子情報」「介護サービス」となっておりまして、満足度もおおむね5割以上、「介護サービス」は8割弱ということで高い満足度をいただいております。

また、求職者の受講ニーズとしては、パソコンスキルのニーズが高いという結果が出ております。

高校生の興味のある学科は、「電子情報」が3割強、その次に「自動車整備科」「メカトロニクス科」の順番でございます。

5ページになりますが、CAD関連コースのニーズについて、5割の事業所は不足感を感じていまして、また概ね4割の事業所が技専での育成を希望しているという状況になります。

また、新川センター、砺波センターへのCAD関連科の設置についても、事業所、求職者ともに一定程度のニーズがうかがわれるという状況でございます。

(3) DXの導入状況及びDX人材のニーズというところで、製造業の方がDXの導入は進んでいると。一方で、デジタル人材の充足については、将来を含めると75%ほどの事業所がデジタル人材の不足という状況でございます。

求職者がもしあったら受けてみたいという箇所も、「DX・IT関連技術の作り方」や、使い方、デジタル技術の活用といったニーズが非常に高いということも出ております。

続きまして、6 ページ、訓練期間ですが、技専修了者が回答した訓練期間は「ちょうどよかった」が7割ほどで、適正だと思う訓練期間としては、「6 か月」「3 か月」で60%以上となっております。また、リモートか対面か選択できるようになると受講しやすいかというのは、「受講しやすくなる」が過半数を超えております。

最後、4 番、広報手段でございます。技専の認知度については、受講経験者の採用なしというところについては、「知らなかった」という事業所が5割弱、また求職者についても四十数%が「知らなかった」というところで、まだまだ認知度が低いということがうかがわれるということです。

また、就職の際の参考にする情報媒体としまして、求職者は「ハローワークインターネットサービス」「ハローワーク」「求人情報誌」と。年齢別に見ると、年齢が若いほど「ハローワークインターネットサービス」が高いと。

また、効果的な広報媒体としましては、事業所、修了生、求職者については、「県や学院のホームページ」や「市町村などの広報誌」が効果的とする一方で、高校生などは、いわゆるSNS、「Instagram」「Twitter」「YouTube」などが高いというところで、ターゲットごとに適正な広報媒体を使い分ける必要があるのではないかという分析となっております。

この後ろにより詳細なアンケート結果が載っていますが、例えば20ページや32ページ等、こういったところに自由記載の部分もございまして、こうした部分について会長に分析いただきましたので、資料3について御説明をお願いしてもよろしいでしょうか。

## 会長より、資料に基づき説明

### ○資料3 ニーズ調査結果 自由回答欄の傾向と分析（会長より）

自由記述について、自由回答欄について少しお話しさせていただきます。

まず、1 ページ、事業所向けの調査で共通の部分ですが、色んなニーズがあったのですが、1つ特に気になったのは、企業と学生のマッチングについての希望があって、卒業予定者の情報共有希望ですとか、求人票を出すタイミングが分からないので教えてほしいというコメントがありました。

あと、就職の仕組みについて、ハローワークだけではなくて、卒業生みたいな、特殊能力を持った人の人材バンクみたいなものをつくってほしいという声がありました。

あと、2 ページの話ですが、アドバンスト人材といいますか、そういう人が欲しいという希望もありました。なので、よりレベルが高めの、例えば経験者並みの技術者を養成してほしいとか、ビルメンテだったら、技能技術だけではなくて営業能力も欲しいし、報告書作成能力なども欲しいという希望がありました。報告書作成技術等の話は後からまたお話ししようと思うのですが、ワードとエクセルとパワーポイントぐらいのすごく基本の短期講座が一応あるんですね。それを

例えばオンライン等も使って、いろんなコースの人が組み合わせて受けられるようにしたらいいのかなと個人的には思いました。

次に、求職者です。時間と場所の柔軟性について希望する声がありました。オンラインコースを希望する声が多く見られました。やはり女性が子育てしながら受講しやすいことから希望する声があり、あとはひきこもりが受けやすいという声もありました。あと、自分の住んでいるところから学校が遠いので、自分の傍にももっと訓練校をつくってほしいという声が数多くありました。こういう場合にも、もしかすると一部でもオンラインコースが準備できたならば、遠くでも受けられるのかなと自分では思いました。

次に、広報が足りないという御意見がありました。訓練校の存在そのものやコースの内容について知らなかったという方が多くて、少々驚いたのですが、求職者の教育費用は無料なのですが、それを御存じなくて、お金もないので高額な受講料が受講のネックで受けられないみたいなことを書いていらっしゃる方が複数いて、金額が無料、または高校生、高卒者だったら安いということ伝えることはすごく重要なのかなと思いました。あと、求職者だけでなく、学生や企業で働いている人にもこの学校のことを伝えたらどうかという提案がありました。

次に、アドバイザーの希望、これも色んなところで出てくるのですが、情報系の転職に特化した専門のアドバイザーが欲しいとか、自己理解のカウンセリングを強化してほしいという声もここでもありました。

3ページは、実習を強化してほしいという話で、卒業時に就職できなかった人向けの職場体験を1月から3月に行ってはどうかという声がありました。多分インターンシップから就職に繋がるようなイメージで提案をされていたと思います。あとは、時期の問題も、就職活動と重なる時期はやめてほしいとか、そういう声もありました。

ほかには個別のリクエストで、施設の問題とかエアコンとか駐車場とか、そういう話をされている方もいましたし、アドバンスレベルの教育を求める方、例えば簿記2級では業務職に就職できないので1級が取れるようにしてほしいという声がありました。

今度は高校生です。高校生に関しては、AI、プログラミング、プログラム言語、情報系、情報通信技術などのコメントがすごく多くなっていましたので、やはり情報系を強化することは働く側のニーズとしても大きいと思いました。

4ページに参ります。今度は修了生です。修了生は結構重要だなと私も思ったのですが、役に立つ方の資格や技術を教えてほしいということです。同じような技術や資格でも、あんまり役に立たない方と役に立つ方と両方あるらしくて、その場合は役に立つ方を選んでほしいという希望が複数ありました。例えば、CS検定を取得できてよかったが、MOSの方が知名度が高いのでそちらを目指したいとか、AutoCADは値段が高いので、あまり企業では使われていないた

め、JWCADなどの無料のCADを授業では採用したほうがよかったとか、日商原価計算はソフトが古過ぎて役に立ちませんでした。ビジネス会計検定や文章情報管理士の資格の方が役立つと思いますという意見をいただきまして、この辺も改善できたらいいのかなと思いました。

あと、(2)と(3)が共通していますが、よりアドバンストなスキルを希望するという声がありました。例えば、もっと専門的なプログラミングをやった方がいいとか、エコ住宅リフォーム(6か月コース)では中途半端な内容だと思った。大工を目指すなら別の専門知識が必要というような、より高い専門性を求める希望や、あとは継続してもっと学びたいということで、例えば造園において刈り払い機の講習会の時間を取り、資格を取れるようにできるといいと思いますとか、エコ住宅リフォーム科であれば、完全な異業種から来た人であれば、もっと長い期間訓練できれば就職率がよくなると思いますとか、その次、5ページになりますが、基本コース6か月の後、応用コース3~6か月に進級できる制度があると、今以上に技能・技術が身につくと思うとか、広く浅くのスタンスはやむなしと思うが、6か月のタームではやや物足りなさを感じたという声がありました。

もしかしたら、今後、在職者訓練の見直しの際に、例えば継続的に技術を高めるような工夫に繋がれるといいのかなと思いました。

次、もっと実技を・実習をということですが、コロナで実習ができなかったというのもあって、やはり実技、実習を体験したかった、強化してほしいという話、お声を沢山いただきました。あとは、施設が古い、新しい機材を希望するという声もありました。

あと、6ページですが、ホームページを小まめに更新してほしい。ハローワークに行かないと訓練学校の情報がつかめなかったということなので、ホームページの情報を更新して、情報をホームページ上で提供するということが重要かなと思います。ホームページだけでなくユーチューブ等も使えばいいと思うのですけれども。

(7)能力のばらつき、授業ペース・スケジュール(とその告知)の問題ということで、学生間に能力にばらつきがあって、ついていくのが辛いという声が結構聞かれました。授業ペースが余裕がないという意見があったので、例えば期間の間に1回休みを入れて、そこを復習期間にするとか、そういうふうに工夫するといいいのかなと思いました。

ここでもカウンセリングの希望もありました。

(9)では、重機や大型免許などの運転技術についての希望も見られました。こちらは、多分改編の方で実際に今回取り入れていただいていると思うので、とてもよかったと思います。

7ページ目になりますが、卒業後のフォローアップを希望する声もありました。1年後、学校に集まって、その後どうしているのか語り合う場があれば他の人の参考になると思うとか、あと学び直しの機会があるとよい、これは在職者訓練とかに繋がる話かもしれませんが。あと、先輩

と交流したいとか、そういう声もありましたので、私としては、例えばインターネットサイト、フェイスブックみたいなものを設けて交流できるようにするとか、1年後に実際に集まる機会を設けるとか、そういうのもいいかなと思いました。

(12) 就職支援については、希望がやはりあって、就業に関してインターネットやPCで求人検索できるとよいとか、紙ベースだと順番に見ていくしかないのが大変だとか、多分卒業生だと思うのですが、コロナ禍における再就職先の提案などの希望もありました。

次の8ページになりますが、(13)のパソコン関連ですが、パソコン関連でもかなり希望がありました。1つには、パソコンのスキルを身につけるコースと経理のスキルを身につけるコースは選択制にしてもらえると良い。一緒になっているコースがありますので、そういうのに対しては、先ほども申し上げたような、例えばワード、エクセル、パワーポイントだけを教える短期のコースを設けて、オンラインで受講等もできるようにするといいいのかなと思いました。

(17)は広報の問題で、広報が足りていないという声はこちらでもありました。もっとハローワークで学校のことを教えてほしいとか、そういう声がありました。

次の9ページですが、場所とリモートに関しても希望はありました。なので、リモート組と実技組を分けて授業を回せばいいとか、今回の範囲ではないんですけど、高岡でも授業をリモートにしてほしいみたいな声もありました。

こんな感じです。少々ばらばらになってしまっていますが、幾つか繰り返されるテーマはあったかなと思います。例えば、リモートの希望とカリキュラム教育への希望とか、あとホームページとか広報の問題等もあったかなと思います。以上です。

#### 事務局（労働政策課長）より、資料に基づき説明

##### ○資料4 令和3年度第3回検討部会（R4.1.31）における主なご意見等

資料5 訓練科目の見直しの考え方（案）／技術専門学院訓練科目見直し後（案）

資料6 学卒者訓練／離転職者訓練の見直しの方向性について

資料7 技術専門学院の見直し実施時期についてのご意見

会長、御説明ありがとうございました。

運用上、回答に対応できる点も多々あるかと思っておりますので、今御指摘いただいた内容等についても今後取り入れてまいりたいと思っております。

続きまして、資料4と資料6を御覧いただきながら御説明させていただきたいと思っております。

資料4でございます。こちらは、前回、第3回検討部会における主なご意見等ということでございまして、前回の御議論及び本日御説明いたしました資料2と、先ほど会長から補足いただき

ました自由回答欄の内容ですとか、そういったところも踏まえまして、事務局としての対応を整理させていただいたものが資料4でございます。資料4の対応の部分で、右側に資料6の幾つと書いてあるものがございまして、それが資料6で直させていただいた部分に対応しておりますので、それぞれを御覧いただければと思います。

それでは、資料4の一番上から御説明いたします。まず、学卒者訓練について、電子情報科ですとかIT関連についていただいた御意見になります。御意見の概要としましては、プログラミングについて、もう少し充実する、あるいは電子情報科の中でコースをつくるといった御意見でございました。右側、事務局としての対応を整理させていただいています。

まず、電子情報科は前身が情報システム科ということで、プログラミングの修得、C言語ですとかPython等というのは現行のカリキュラムにも入っております。また、民間教育訓練機関とのバランス等もありまして、製造業等にも対応できるようにハードウェア技術の習得もカリキュラムに組み込んだ、それで電子情報科としたという経緯もございます。また、就職としましては、一応製造業だけではなくて、システム設計、ソフトウェア開発等への就職が3割強という実績がございます。また、基本情報技術者試験ですとかITパスポート試験のカリキュラムというのもかなりの時間かけて実施しております。また、制度上、訓練期間そのものをさらにアドバンストで延長するというのは、少し難しいかなと考えてございます。

続きまして、金属系についての御意見です。こちらは、機械の部分、機械関係についても、離職者について何か強化したらいいのではないかという御意見、また、CADと板金が少々異なるのではないかという御意見がございました。

こちらは資料の6-4を御覧いただきたいのですが、前回、ほかの委員からもいろいろ御指摘いただいていた箇所にはなりますが、CADクラフト科については、習得する技術を建設、建築CAD等としておりましたが、こちらを主に製造・ものづくり系分野への就職を目指す訓練科としたいと考えています。

また、金属関係については、溶接シミュレーターの導入というのもぜひ検討したいということで、資料6-3に溶接シミュレーターの整備というのを追加しております。また、溶接の板金についても、こちらはこの前、斬と記載しておりましたが、実は一部取り入れている部分があったので、より拡充するというところで括に修正しております。機械板金とCADを組み合わせた授業というのは既に実施しているところでもございまして、金属(ものづくり基礎)科について、前期、後期のコース制としておりましたが、コース制はやめまして、金属加工科1年のコースを半年に圧縮したような形で、6か月訓練においても溶接施工、切削加工に加えて機械板金、CADも含めるという整理に変更させていただいています。

続きまして、資料4の2ページでございます。既に先ほど触れました、建築系の部分でして、資

料6-4が対応いたしますが、建築関係の学科とCADクラフト科の位置づけについて、もう少し明確化するべきではないか、あるいはすみ分けをどう考えるのかという御指摘でした。

本校で行います建築関係の部分については、短期(6か月)を建築CAD科としていましたが、こちらを「建築デザイン科」に名称を変えさせていただきたいと思います。訓練する内容としても、資料6-4を御覧いただければと思いますが、木造建築一般プラス建築CADというのが総合建築科1年でして、こちらは企業実習付きです。これの企業実習は付いていないのですが、コンパクトに中身を圧縮した科ということで、短期(6か月)を建築デザイン科にして、デザイン要素と建築CADを実施していくということで打ち出せないかと。それによって、女性の受講者等も増やせればいいかなと考えております。

一方で、CADクラフト科につきましては、資料6-4の下にございますとおり、こちらは製造・ものづくり系分野への就職を目指す訓練科という位置づけにしたいと。訓練内容としても、3Dプリンターや3次元CAD、2次元も当然入りますが。あるいは、汎用機械の操作といった、ものづくり製造現場全般で使えるような訓練として、アルミ、プラスチック、木材等を加工できる技術者を養成と。資格としましても、3次元CADのほか、各種技能講習・特別教育ということで、玉掛け、床上操作式クレーン運転、フォークリフトですとか、製造業の工場等でも役に立つような資格の取得も後押しする訓練科としたいと。いろいろ習得できて就職の幅が広がるということをPRしていきたいと考えております。

続きまして、事務系のビジネス事務科です。資料6でいいますと、6-7になります。

こちらは、SNSやホームページ活用、ソフトウェア・ネットワーク構築、情報セキュリティー等の内容を拡充するというので、この前の資料ですと、時間的には16時間程度としておりましたが、少し時間が足りないのではないかという御意見をいただいております。こちらは、4か月訓練ですと、どうしても時間に限界があるので、実は従来は6か月でやっていた時代もありますし、ほかの訓練科ですと6か月という科もございますので、情報関係のITパスポートやIT関連資格の取得も目指すために、思い切って6か月に延長した上で、十分な訓練時間を確保して、そういったところも強化していきたいと思います。ただ、定員はどうしても減少することになります。こちらは民間委託訓練の枠にもまだ余裕がありますので、そちらで対応させていただきたいと思っております。

また、ハイブリッド型の授業の御指摘、先ほどのアンケート調査にもございました。こちらについて、今資料4の一番下の方を御説明していますが、制度上、オンラインの訓練がきちんと認められるためには、同時双方向かつリアルタイムで行う必要があるということで、録画内容のオンデマンドでは、なかなか出席と認められないというところがございます。ただ、復習用等のために事後配信は可能だと考えております。また、今般、大雪やコロナ、それこそ感染者も技専でも

結構出ておりましたので、そういったときのためにオンライン訓練は実際に導入しておきまして、非常に有効であると認識しております。

ただ、機材の準備の関係等で、学卒者訓練では既にオンライン訓練を実施できていますが、離職者訓練ではまだできていないところもございますので、今後、離職者訓練にも取り入れることをやっていきたいと考えております。また、オンラインとリアルの選択制については、現場でどういうふうにやっていけるのかとか、実務上の課題なども整理の上、中長期的な検討課題かなと考えております。

続きまして、資料4の3ページでございます。こちらは委託訓練 I T 実践科のコース数、人数を増やす案を前回お示ししましたが、就職先、受入先があるのかとか、或いはアドバンストなコースの選択という御指摘がありました。就職につきましては、製造業等の I T 関連職種等の就職先開拓にも力を入れていきたいと思っております。アドバンストという話につきましては、6か月訓練が基本的には標準カリキュラムということ、また、先ほどのニーズ調査の中でも、6か月、3か月ぐらいを希望される受講生、修了者の方が非常に多かったというところで、特に離職者の方ですと、どうしても、なるべく短期間で訓練をして、早く就職したいというニーズも高いのかなと考えているところです。一応、能力開発セミナーという在職者訓練も実施しておりますので、一旦訓練を受けていただいて、まずは就職していただくと。その後、在職者訓練を受けていただく、あるいは個人で資格を取られるという場合に、国の方でも助成金制度がございますので、そういったものを活用することもあるかなと考えております。

続きまして、広報について、こちらも複数の委員から御指摘をいただきました。アンケートの中でも、やはり知られていないという結果が出ておりますので、ホームページ以外にも SNS の強化を図るとか、また将来的な人材像ですとか、どのような仕事に就けるかというイメージがつきづらいのではないかというお話がございましたので、こちらもポリテクセンターさん、ポリテクカレッジさんのパンフレットとかが非常に充実されていますので、そういったものも参考にしながら、何か充実できないか、検討したいと考えています。例えば、技専、ポリテクセンター、ポリテクカレッジ合同でのパンフレット作成ですとか、そういったこともあるのかなと思っております。

また、学費の面について、強調することが大事だということで、こちらも、より強調する形での記載をしていきたいと考えております。

最後、科名のところでございます。こちらは、今のメカトロニクス科につきまして、デジタルものづくりか機械エンジニアか、なかなかどっちかというのが難しいのかなということで、括弧や併記というお話もいただいておりました。その後、改めて検討しまして、科名が長くなり過ぎるのも少し分かりづらいいかなということ等もありまして、機械エンジニア科をベースにした上で、

今回、FAやロボットを活用した製造ライン制御訓練をより拡充するというふうを考えておりますので、ロボットの制御ですとかに対応できるという意味で、「機械・制御エンジニア科」で提案させていただければと思っております。

資料4及び資料6の説明は以上になります。

また、資料5については、この修正内容を反映した全体の概要、見取図のようなものになってございます。

最後に、資料7について御説明させていただきます。技術専門学院の見直しの実施時期についてです。

こちらは、第1回の検討部会で、技専の見直しというのがどういうタイムスパンでやられているのかですとか、そういった疑問、御指摘がございました。委員からは、スケジュールは15年に1回とか決まっているのか、大学は7年ぐらいに1回見直しをしていると。今回、大分間が空いていることもあり、もう少し早いタイミングの定例的な見直しも必要ではないかという御指摘をいただいています。また、委員の学校でカリキュラムの見直しを毎年行っている。そこで大事なのはやはりニーズであるということで、ニーズも踏まえて毎年見直しをかけているという御意見がございました。こうした御意見を親会の職業能力開発審議会にも御報告させていただきたいと思っております、事務局としまして、どのようなタイミング、スケジュール感で見直すのが適切であるかということについて、改めて整理の上、親会の方で提案させていただき、御議論いただければと思っております。

事務局からの資料説明は以上でございます。

## ●議長

それでは、ただいまの訓練科見直し案等について、皆様から御意見、御質問等をいただきたいと思っております。お一人3分程度でお願いいたします。特に挙手される方がいらっしゃらないようでしたら、順番にお伺いしてまいります。では、お願いいたします。

## ●委員

前回は交代したばかりで頭がついていっておりませんでした。

いただいた例えば資料2等も含めて、いろんなアンケートの生の声等も見せていただきました。とりわけ修了生の御意見なんかも見ながら今回の改定案等も見せていただきました。改定内容については、予算であったりとか人の関係も含めて、私自身は説明については納得させていただいておるわけではありますが、やはり体験実習、コロナの関係とかがあったことは十分承知してはいますが、そういったプラスアルファのところを望む声が結構多かったかなと思っておりますし、期間

延長のところも結構御意見が出ていたかなと思っていますので、今後の課題という中では、そういったところをサポートできるように、この期間の部分については検討しなきゃいけないんですけども、次回のところではそういったことを検討しなければいけないのかなと思いました。

在職者、アドバンスの部分、そういったところをどういうふうにできるか。多分ここだけではなくて、ほかのポリテクだとか、色んなところと連携をしながら、できるだけダブらないように、連携する形を検討していかなければいけないのかなと感じたところであります。基本的には、今回の改定案については、私としては一応納得したということで意見とさせていただきます。

#### ●議長

ありがとうございます。事務局から何かありますか。

#### ●事務局

ありがとうございます。訓練期間の話ですとか在職者向けの訓練の充実ということで、今リカレント教育というのも非常に国全体でも充実させていくべきだという議論がありますので、離職者、学卒者訓練をした後、在職状態になった後でも、より一層充実した訓練、自己啓発なり職業能力開発というのを継続的にやっていけるような仕組みを国の関係機関とも連携しながらつくっていくことは非常に重要だと思っておりますし、今回あまり議論できなかった部分ではあります、在職者訓練についての中身、カリキュラムをどういうふうにするのかは、離職者訓練や学卒者訓練との接続も意識しながら考える必要があると思っておりますので、また今後の見直しのときに、そういったところも検討できればと考えております。

#### ●議長

ありがとうございました。では、次、お願いいたします。

#### ●委員

お疲れさまでございます。資料6-3で質問したいことがあるので、よろしく願いいたします。

金属（加工、ものづくり基礎）科の部分で、ここは入校率が低い状況にあるという現状がある中で、そうはいくものの、企業というのはCADができる人とかマシンオペレーションできる方々が欲しいというのはアンケートでも分かる状況ですけれども、ここで見直しの方向性の案の中でポイントが書いてありまして、「3Kイメージで敬遠する求職者の間口の広げるため、作図やオペレーションを訓練するコースを新設」と記載があります。これは大変いいことが書いてあります

が、これが金属加工科、金属ものづくり基礎科の中にどう組み込まれているかという部分を教えていただきたいのと、もう一点は、今のままだと金属加工科と金属ものづくり基礎科が全く同じような内容にしか私には見えてこないで、その違いの部分を少し教えていただければいいなと思います。以上です。

●議長

ありがとうございます。事務局、お願いいたします。

●事務局

技術専門学院です。まず、このポイントの作図やオペレーションというところですが、現在、金属加工の特に板金の世界では、まず板取りをするのは機械というか、レーザー加工なりタレットパンチプレスなりで板取りをしています。ということで、昔みたいに直角に切っているということではなくて、そのもの自体、箱形の展開図みたいなもので製品を作る、そのときには当然作図という、CAD/CAMが必要になってくるということでCAD/CAMということになります。

CAD/CAMができたところで、今度は、今ほど言ったレーザー加工機やタレットパンチプレスというNC機にかける、またはもう少し幅を広げて切削加工の操作機械等ができるような、機械のオペレーターといっても、今は昔みたいに汚くなくて、きれいな機械、NCの前でキーパンチャーをするような感じなので、そういうところを狙っております。

1年と6か月の違いということですが、先ほど言ったように、まず1年の方は企業実習がついているという形で、概ね3か月ぐらいの企業実習に行っております。あと、実際はボリュームの問題で、大体同じようではあるのですが、溶接施工にしてもその他のところにしても、ボリュームを少し大きくして、より若い人、工場というか生産現場に合うようなものを考えております。以上です。

●議長

いかがですか。

●委員

ありがとうございます。少々私、勘違いしました。作図というのは機械製図ではないのですね。

●事務局

機械製図を基にして、結局はCAD/CAMというか、図面を描くということになります。

●委員

組立図から部品図への展開とか、そういったことはできるということになりますか？

●事務局

はい。

●委員

分かりました。女性の方々はCADで部品図を描いたりする仕事がしたいのかなとふと思ったものですから。

●事務局

はい、そのとおりです。委員のおっしゃるとおり、女性でも今もうコンピューターの前で図面を描いている人が主流ですので、そういう人を育てたいと考えております。

●委員

分かりました。ありがとうございます。

●議長

ありがとうございます。では次に、お願いいたします。

●委員

前回の会議、私は欠席しておったものですから、内容的には少し飛んでおりますが。

私は、建築のことしか分からないので、これだけ多業種にわたっているいろんなことを報告していただいて、なるほどなというふうに今思っていたところであります。

建築の方しか分からないということで、木材加工科の方をちらちらと見ておりましたが、要するに建築の総合的、木材の方に入ってくる人というのは、CADにしても何にしても、要するにCADとデザインということであれば、形であれデザイン力であれ、設計力ということになれば建築士の方の関係になってきますし、技能士とか大工ということであれば労働力の方になりますので、方向が、建築といえば建築なんですけど、中身としてはまるで違う要素があって、入る人が何に基づいて入ってくるのか。大工を目指して入ってくるのであれば、CADをやっておったら、これ何だいなということになるし、デザインと設計に対して魅力を持って入ってきた人に技能士の勉強をさせると、これまた何だいなということで、それぞれが相反するような、大まかに見る

と一緒になんですけど、中身はまるで違うという感じ。

それで、先ほどから見ていたら、要するに在職しながらの訓練というか、本来、大工なんかでも親方が10人おれば10人が違うことを言って、若手が何かやろうとしたら何をやっても叱られるというのが職人の世界、これは会社でも何でもそうかもしれません。前後の全ての段取りをした上でベストは何かというのが、要するにリーダーというか判断する人の気持ちなんですけれども、若い人というか新しく入った人は、自分の与えられたことも精いっぱいなので周りが見えないので、必ず叱られることになるわけですね。ということは、どんな現場であろうが、在職して訓練ということが最高の訓練状況下になるのではないかなと。

今、全体のほかのところを見ていると、こういうことも勉強していかなきゃいけないし、色々なことを勉強したいというけれども、それは叱られるのが嫌だから一生懸命できるだけのことを僕は知識を持ってやっておきたいと。でも、どれだけ知識を持って学校で習っても、現場に行けば必ず怒られる訳で、そういうことを現場で少しずつ習っていくということが本来一番大事なことになるのかなというふうに全体の話聞きながら感じました。そんな中で何がいいのかなということも考えたりしながら聞いておりました。少々話がとっ散らかっていますけれども、以上です。

## ●議長

ありがとうございます。事務局からありますか。

## ●事務局

今の委員の御指摘のとおりなので、私らも訓練科を考えるときに、実は相反する両方のものを追い求めております。違いというか差別的には、さっき言った大工の方は1年の方で育ててもらう、短期、短い6か月の方についてはデザインの方を重視。ただ、かぶる部分が多いもので、なるべくかぶらせながら訓練をしていくということを考えております。

今言われたとおりなのですが、1年の訓練で、正直な話、そんなに物にはならないもので、なった後は実際に企業実習で、企業で少々鍛えてもらって、その後は企業に就職していただいて、今度は委員御存じのとおり認定訓練校等もございますので、そこで在職者訓練をきっちり行っていく、そのまずスタート地点の若い人を集めるというところで我々の訓練校が必要となるのではないかなと思っています。当然、女性とか若い人のデザインのところも重視して育てていきたいということで、本当に二兎追いたいなと思っています。以上です。

## ●委員

ありがとうございます。

## ●議長

ありがとうございました。では、次、お願いいたします。

## ●委員

よろしく申し上げます。ニーズ調査の報告書、すごく役立つ情報があつて素晴らしいなと思いました。御苦労されて取られたのかなと思って、でもここでこれをやられたことは本当に意義深いことかなと思いました。

最初に少々お聞きしたいのですが、ビジネス事務科、4か月から6か月に延びましたよね。すごく大きな決断だったかなと思うのですけれども、先ほどちらっと受講生の方は減ると思うというふうにおっしゃったのですが、その理由を教えてくださいいいですか。

## ●事務局

御質問ありがとうございます。こちらは、4か月ですと1年に3回転できるというイメージなのですが、半年になりますと2回転になりますので、その分、減ると。ですので、本校では、今20名掛ける3で、全体で60名受けられますが、それが20名で6か月掛ける2なので、40名という形で少々減るということになっております。

## ●委員

分かりました。資料6-7の見直し内容のところですが、ビジネス事務科で、拡大ですね、SNSとかホームページの活用等とあります赤いところ、これは今ビジネス事務をする上ですごく必要ですので、すごくいいと思います。

私が気になったのが、6か月本当に必要なのかなと、実を言うと少し思ひまして、すごく大事なことですけど、例えば小さいお子さんがいるお母さんとか、なるべく早く働きたいという気持ちも沢山あると思うのですね。6か月間、半年間学校に通うって、無料ということもあるのですけど、でも、その分働けないということもありますので、躊躇される方が増えるのではないかなと思ったのです。でも、6か月間きちんと内容が充実したものを習得できるということが分かれば納得されると思います。

なので、ニーズ調査にもありましたが、本当に役立つ資格とか役立つ情報、この黒い部分ですね、簿記会計、会計事務、パソコン操作、社会保険、接客マナー、この内容をもう一度ニーズ調査の、特に修了生の方々の御意見をきちんと把握させて、本当にきちんと役立つ内容のものを6か月間かけて習得していただくということをやっていただきたいなと思いました。

能力のばらつきというのがすごくあるみたいですよ。そこで、いきなり難しいシステムのこ

ととか、エクセル、ワードも使えないのに、そういう話になって全然ついていけないという受講生さんがいると、それもまたもったいない話です。一人一人がどれだけ成長できるかというところに寄り添ってカリキュラムをつくるのは結構難しいけれども、そこをやっていかないと、6か月間という貴重な時間が無駄になってしまうので、その辺に気をつけてぜひ中身をつくっていただければなと思いました。

あともう一点ですけど、広報で、技専、ポリテクセンター、ポリテクカレッジの三者合同のパンフレットという、この発想は素晴らしいなと思いました。普通に勉強したい、学びたいという人は別にどこでもよくて、自分の合ったところ、選択肢が沢山あればあるほど自分が本当に学びたいことを学べると思いますので、その選択肢を一気に見せてあげられると、すごく活用される人が増えると思いました。以上です。

### ●事務局

御意見ありがとうございます。6か月に延ばす件につきましては、ITパスポート習得に係る時間が大体100時間程度ということで、1か月から2か月程度、この資格を確実に取るという意味ではプラスで必要ではないかということで、2か月延長させていただいたということになります。

IT関係の部分については、おっしゃるとおりで、エクセル、ワードとかの基礎ができた上でということにはなると思いますので、基本的には恐らくカリキュラムの後半の方に組み込むことになるのかなと思うのですけれども、少し補足を。

### ●事務局

今言われたとおり、ITパスポートをやるためにはそれぐらい必要かなと思っています。委員御指摘の6か月もという話ですけれども、県はほかにも委託訓練で1か月のコースまたは託児所、あとは短時間のコースとかいろいろメニューをそろえておりますので、一番充実しているのは施設内のこの6か月だというふうに御判断いただければいいかと思います。あとは委託訓練でいろんなコースをやっています。

あと、経済的な問題ですが、当然ほとんどの方は雇用保険を受給されて来ておりますので、そのあたりも問題ないかと思います。育児も、託児サービスもございますので、そのあたりも含めて問題ないと考えております。

### ●委員

ありがとうございます。

## ●議長

ありがとうございます。では、次、お願いいたします。

## ●委員

私からは、事務系、ビジネス事務科についてですが、内容については前回も申し上げたとおり、名称等も統一していただき、あとはITパスポートについても、委員からの御意見を聞かせていただく中で、時間的に難しいのかなと思っていたところ、今お話があったとおり、期間を延長するという割と大きな変更をして対応していただけるということで、先ほど出ていたような危惧はある一方で、このような形で新しい形になったのは非常に素晴らしいことなんじゃないかなと思っています。

内容ではなくて、実は私、今までその辺についてはあまり言ってこなかったのですが、先生からもオンラインの需要について、自由記述等から拾っていただいている御意見が出ていたと思います。資料4を見ますと、このような言い方は適切か分からないのですけれども、よくある言い訳が書いてあって、よく分かるんですね。ただ、やはりこういうふうにビジネス事務科が変わった中で、こういう形になっていくと、むしろカリキュラムの一つとして、リモートを活用した講義であるとか演習みたいなものに、まさに取り組むべきことになったんじゃないかなと思っています。

環境については、もちろん書いてあるとおりですけれども、御自宅にインターネット環境がきちんと整備されていない方、当然PCの所有率も下がっていますので、家にはPCがない等、いろいろあると思います。そうすると、全員分、貸与するPCを用意しなくちゃという発想になるのですけれども、持っていらっしゃる方は持っていらっしゃる方で自宅で受ける、持っていらっしゃらない方は学校に来て、学校内でリモートをするとか、やろうと思えばやり方はいくらでもあると思っています。

なので、ここに書いてある理由は、よくあるリモートができない理由ですけれども、実はどうにかしてやろうとすれば、やりようはあると思っていまして、全てが整っていないと、例えば全員分のルーターと全員分の端末を用意していないとできないという発想はこの際一旦置いておいて、なかなか公共性の高いものでこういったカリキュラムを提供するときに言いづらいのかもしれないですけど、ぜひそこは少し踏み込んで検討していただければ、他の科はやはり現場の実習等があってなかなか難しいんですけれども、ビジネス事務科は、先ほど申し上げたように、中身そのものも、これからのリモートの中でどう仕事をするかというところがそのもの内容になってくると思いますので、ぜひそこは強く検討していただければなと思っています。以上です。

●議長

いかがですか。

●事務局

御意見ありがとうございます。オンラインの訓練自体は普通課程で一部、今回も、不測の事態というのはあったのですが、既に実施しておりますし、実際にできていたということですので、オンライン訓練自体が完全に認められないものではないと考えています。ただ、離職者訓練については、まだそこは取り組めていないというところで、設備部分、整備も含めて検討していきたいと。

おっしゃるとおり、ほかの訓練は、現場での仕事ですとか実技ですとかが結構あったりしますので、まずはビジネス事務科については、おそらく離職者訓練の中では一番取り組みやすいというのは御指摘のとおりかなと思いますので、そこで、この科についてまずどういったやり方が考えられるのかというのを。一方で、対面のよさみたいな部分もあるかなと考えていますので、そこのバランスも見ながら検討したいと考えております。

●議長

ありがとうございます。そうしたら、お願いいたします。

●委員

よろしくお願いいたします。前回の会議を踏まえて、いろいろな意見を反映していただいて見直しをかけていただいておりますことについては非常に感謝いたしますし、御苦労をお察しいたします。ありがとうございます。

その中で、幾つか学科名をこのように変えようということで対応されておられますけど、今回、学科名を変えたら、そもそも学科名というのはそんなにころころ変えるものではないと思っていますし、1つ変えたらその学科名が浸透するまでにある程度の時間が必要だと思っていますので、そんなにころころ変わるものではないと思っていますので、慎重に考えられたとは思いますが、そのような意識はぜひ、これは合わないからまた変えようとか、そんな感じには持って行ってほしくないなと思います。

その結果、建築の方で建築デザイン科という名称が出てきていますが、実は、富山情報ビジネス専門学校でこの4月から建築の学科を開設するんですが、その学科名が「建築・デザイン学科」という全く同じ学科でして、ただ、そこは主なターゲットは学卒、高卒者で、中身も一級建築士の受験資格を卒業と同時に得られますよということを訴求しているの、中身は違いますが、学科

名が一緒に、離職者といいますか、社会人の方も実際に今回入試を受けて入ってこられますので、全く別とは言い難くて、ある程度競合しているなど思いながら。同じ学科名が出てきて、そこで私がこうやって今日述べているというのも何か複雑だなと思って聞いていました。仕方ないかなとは思っています。

あともう一点、今回の資料には、それぞれの科でどんな人材を育てたいのかというところがまだ活字として見えていないような気がしています。やがてパンフレットを作成されるということですが、そこにはぜひそれぞれの科で、こんな人材と、育てたい人材像といいますか、こういう人材を育てますということを活字として見せるべきだなと思います。以上です。

#### ●議長

ありがとうございました。お願いいたします。

#### ●事務局

御意見ありがとうございます。学科名につきましては、おっしゃるとおりで、あまりころころ変えるべきものではないかなと。企業の皆様や求職者の方々への浸透という意味で、一定の時間も要すると思いますし、科名を変えたことで入校率とか就職率とかにどのような影響が出ているのか、そういうのもある一定の期間を見ないとなかなか判断できないかなとは考えておりますので、ある程度の期間は今回変えた科名でいくということだと考えております。

また、建築デザイン科がかぶってしまって大変申し訳ないところではあるんですけども、こちらの方は、CADですとか、CADによるデザイン、あるいは建築、大工みたいなところが念頭にございますので、総合建築科の方は、例えば二級建築士の資格取得なんかも目指すといったところはございますが、少なくとも短期（6か月）については、半年ということもあって、なかなかそこまでのレベルには達するものではないかなと思っておりますので、役割分担させていただきながら、こちらとしても実施させていただければと思っております。

目指すべき人材像につきまして、資料上まだ記載はできていないところですが、学卒者、求職者へのPRの際にはもちろん必要になってくる部分かと思っておりますので、そういったところもカリキュラムの内容等とともに今後詰めていきたいと考えております。

#### ●議長

ありがとうございました。では、お願いいたします。

## ●オブザーバー

この短時間で大幅な見直し、本当に御苦勞様でございました。大変だったと思っております。

感想にはなるんですけれども、皆さん御存じのように、職業訓練という制度そのものは大昔からあったんですけれども、時代だとか地域ニーズがどんどん変化しているので、予算だとか機材、指導員の育成だとか確保、様々な制限はあるんでしょうけれども、見直し、改善というのは常に必要なのかなと考えています。また、これは正解というのがなかなかないというのが非常に難しい世界なのかなというのは常々思っているところであります。

また、PRの話も少しあったようですけれども、これも非常に大事で、利用される方に対して、内容の理解と出口の理解、この両方がうまく伝わらないと効果的なPRにはならないと思っておりますし、また、最近では皆さん、自分の好きな情報というか、知っている情報しか取りに行かないので、知らない情報を取りに行くというのがなかなか薄くなっているのでは、この辺をどうしていくのか。職業訓練という制度があるよというのをどう周知していくのかというのは非常に重要であるし、また、この先、難しくなっていくのかなと個人的には感じております。

ただ、知っていれば行きたかったのにとという方がいらっしゃるのも事実でございますので、そういうことのないように、今後も私どもも県の方と協力させていただきながら、県内の職業訓練を支えていきたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

## ●事務局

ありがとうございます。常に改善が必要というのはおっしゃるとおりだと思いますし、またPRする上で、内容自体を理解いただいて、さらにその結果、どういう出口があるのかと、両方を示していくと、そこが非常に重要だと思っております。

今回のアンケート結果でも、修了者の9割以上の方が満足いただいているということで、個別の記載でも、知られていないのがもったいないとか、もっと知ってもらったら利用する方ももっと増えるのではないかとというトーンの御意見もかなりございましたので、いかに効果的に届けるかということも今後さらに引き続き検討したいと。その際は、ぜひポリテクセンターさん、ポリテクカレッジさんと連携しながらやっていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

## ●議長

ありがとうございました。では、次、よろしくお願いいたします。

## ●オブザーバー

ニーズ調査等の根拠データに基づいて見直し案を御提案していただき、大変ありがとうございます。見直し案の方向性、それから具体的に対応で書かれてあることも含めて、賛成させていただきます。

コメントというか、感想みたいな意見ですが、6点ほど言わせていただきます。

まず1つ目、訓練の内容、カリキュラム体系が、私たちの業界では訓練体系と言っているのですが、そのポリッシュアップ、いかに素晴らしい訓練内容を提示できるかについて、しっかりとやっていただきたい。基本になるのは、結局どういう人材を育成するのか、訓練で何が身につくのかということだと思います。もう既にやっていらっしゃるかもしれませんが、品質を保証する、これだけの能力が担保できますということを修了認定の点検ということで、私どもの言葉を使うと技能照査と言いますが、卒業認定のために試験を行う。普段から身につけていないときには、単位は出さない。補習とか補講とかをやって、これだけのことを身につけさせる。そういう品質保証やさらなる学生のレベルアップを担保する。

2番目に、資格です。2級程度の技能検定が欲しいとニーズ調査の中で述べられています。技能検定の受検料を助成する制度で、高校生、大学生が対象から除外されます。可能でしたら、県の条例とかで対応していただきたい。今まで半額助成されていました。全額自己負担となると、技能検定の受検が大幅に減るだろうと予想されます。

3番目に、広報が足りないというのはそのとおりです。1番目で申し上げたように、こういう訓練が提供され、こういう資格がとれ、能力が身につきます。就職してしばらくすると、会社の中でこういうふうには輝いて仕事をしているというイメージをパッケージで高校生に示したり、1年生のガイダンスのときに示したいと願っています。

各所のパンフレット等、対応のところに書かれていますが、人への投資というか、ものづくり人材の育成に関して、公共のポリテクと技専校が連携することはいい方法だと思います。私は、ものづくり人材の育成だったら、民間の、私どもは勝手に専各と呼ばせていただいています、そういうところとも一緒になったパンフレットだって作っていいと思うのです。要するに、各種パンフレットというのは何種類も作っていい。少なくとも、大学コンソーシアム富山に対抗できるようなパンフレットは作るべきだと思います。

4番目は就職支援です。就職担当の専門職、専門職員を配置されていますか。また、修了生のOBとかOGを窓口、企業との間の橋渡しをしてもらう仕組みも活用するとよいと思います。

5番目に先生方のレベルアップ。特に研修に関しては、私どもの機構の職業大で技専の先生の研修も一手に引き受けていると思います。ぜひレベルアップをしていただくのにどんどん活用していただければと思います。

最後の6番目は実施時期に関してです。資料7にありますように、大学評価・学位授与機構が行う認証評価というのが7年ごとに実施されます。文部科学省が行っている評価は、中期計画の期間内に2度あります。自己評価あるいは第三者評価というのは毎年やります。

企業ニーズ、時代のニーズ、今回のニーズ調査など、毎年やるのは大変かもしれませんが、最近の情報をとられるとよいと思います。今年はこの部分を膨らませてとかやって、最新のニーズ調査に相当するものでカリキュラムをどんどん見直していった方がいいと思います。育成すべき人材像はニーズに対応して数年ごとに変わっていくのです。というのが感想というか意見です。以上です。

### ●議長

ありがとうございます。いかがですか。

### ●事務局

多岐にわたる御意見、ありがとうございます。

訓練体系の提示、どういう人材を育成すべきか、そういうのをきちんと整理すべきという御指摘がありまして、そこはおっしゃるとおりだと思いますので、しっかりやっていきたいと。

技能検定の補助の関係でございますが、こちらは元々国が10分の10の財源で実施していたものになりまして、今般、国の雇用保険財政が非常に厳しいということで、おっしゃっていただいたような方々について補助対象から外れたという経緯もございます。元々国が全国的に政策としてやられていたということもございまして、県としてどう取り組むべきか、扱うべきかというのは、少し検討が必要かなと思っております。

広報につきまして、パッケージでというのはおっしゃるとおりだと思いますし、また、大学コンソーシアム富山にも負けないような形での訓練校としての打ち出しというのは、ぜひやっていければと思います。

また、就職支援で、OB、OGの方のネットワーク活用というのは、非常にいい取組だなと思っておりますので、そちらも御参考にさせていただければと。

最後、技専の見直しの時期、7年ごと、あるいは数年ごとというお話がありました。親会の職業能力開発審議会の方では、富山県の職業能力開発計画を5年に1回改定、見直しということを実施しておりますので、計画自体の改定が5年に1回であると。その際に、今は計画に資するための調査というものを実施しておるわけですけれども、例えばそこに訓練ニーズの調査を盛り込むということも今後考えられると思います。ですので、計画の見直しは5年というところは、1つの目安になるのかなと思っております。

また、調査自体も、ポリテクセンターさんですとかポリテクカレッジさんと連携した調査というのを、今も実施しておるところですけれども、そちらもより充実させていただいて、小幅などうか、そこまで大がかりでないものであっても、できるだけ毎年、何かしらのニーズを把握した上で、親会の審議会も年に1回程度は必ず開催するというふうになっておりますので、その場でも、今までは計画の進捗状況の議論しかしてこなかったわけですが、例えば技専の状況ですとか訓練のニーズみたいな話というのも、今後は話し合われるべきではないかということは少し考えております。以上でございます。

## ●議長

ありがとうございます。すみません、私からも一言コメント、一言というか、沢山コメントさせていただきたいのですが、できるだけ早く終わらせたいと思います。

まず第1点で、すごく大変な作業、たくさんアンケートをやっていただいて、本当に事務局の皆様、頑張られたと思います。本当にありがとうございます。

あと、訓練の延長希望とかなんですが、在職者訓練とか大学とかポリテクとか、国の補助を受けることとか、いろんな方向があると思うので、例えば学校を卒業するときに、今後の継続の可能性についても学生さんに伝えてあげることができるかというのかなと思いました。

あと、ビジネス事務科のオンラインにするというのはとても素晴らしいアイデアだと思いますし、あと、短期の委託訓練、エクセルとワードだけとか、パワーポイントだけとか、実は事務局の方には直接お話ししたのですけれども、そういうのもハイブリッドで選択できるようにすると、すごくニーズに合うのではないかなと思いました。

4つ目はSNSとかの強化で、例えば先輩とか同輩とかとの繋がりも、SNSとかも使って繋がったらいいかないかなと思いました。

次に、今回素晴らしいコメントが得られたと思うので、ぜひ現場の先生とかにもコメントとか結果とかを見せていただいて、フィードバックにさせていただけたらいいのかなと思いました。

あと、県とかのホームページに、今回の技専だけじゃなくて、ポリテクとか、ほかのいろんな選択肢について、すごろくの図みたいな感じで、こういう人はこういう訓練があるよみたいなのを簡単に分かるように図解して、選択肢を伝えられたらいいのかなと思いました。結構難しいかもしれませんが、以上です。本当にありがとうございます。

## ●事務局

コメントありがとうございました。期間の延長というところで、アドバンス、在職者訓練ですとか、ほかの資格取得も含めて、どういう接続があるか、そこを修了生に伝えていくというのは

非常に大事ですし、今後やればいいのかと思います。

また、SNSでの繋がりですとか、そういったものも今後活用できればと思います。

ほかのポリテクセンターですとかポリテクカレッジさんとの違いとか、そういうのも一目で分かるようなものがあれば、より求職者、学卒者にとってはいいものになると思いますので、そういったものも何かできないか検討したいと思います。

また、改めまして、ニーズ調査の自由記載欄の分析をいただきまして、ありがとうございました。この場を借りて感謝を申し上げます。

#### ●議長

ありがとうございます。では、私からは終わりですので、もう時間にもなりましたので、以上で検討部会を閉会することといたしまして、事務局へお返しいたします。

#### ●事務局

会長、どうもありがとうございました。

それでは、事務局より事務連絡を申し上げます。本日の議事録については事務局で取りまとめ、委員の皆様の御発言の内容について、それぞれ御確認いただいた上で、富山県のウェブサイトに掲載をいたしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

それでは、これをもちまして、令和3年度第4回富山県技術専門学院見直し検討部会を閉会いたします。お疲れさまでした。

— 了 —